



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四〇一号）

処暑 しよしよ

八月二十三日

伊勢二見の画人・中村左洲生誕一五〇年

生涯、最も鯛を描いた画人かもしれません。明治、大正、昭和を生きた伊勢市二見町の画人、中村左洲さしゅうです。二見町今一色いまいっしきの漁師の家に生まれた左洲は家計を助けるため小学校を中退し、漁業をしていたこともありました。魚を扱っていた左洲は魚類、とりわけ鯛を得意とし、「鯛の左洲」といわれるほどです。左洲生誕百五十年を記念して、伊勢市二見町の「賓日館ひんじつかん」で開かれている企画展では、鯛だけではない左洲の画業を知ることができます。

まずは、左洲が描いた二見の代表的な風景、夫婦岩めおといわです。左洲の画室を模した一室には、夫婦岩を描く左洲本人の写真が展示されています。夫婦岩は大正七年九月暴風雨と高波により小さい方の女岩めいわが根元から折れて傾き、その後には据え直しの工事がなされました。けれど、左洲は、岩の根元が少しくびれた工事以前の女岩をその後も描き続けました。夫婦岩は様々な画人が題材として描いています。が、地元生まれ育った左洲の描くものには格別の愛情が込められていると感じました。

「左洲は、太陽の描き方も下部をぼかし、独特で上手いと思います」と企画展を担当した学芸員の山本翔真さんは話してくれましたが、これも朝日の名所と知られる二見浦を見て育った左洲だから、朝日への敬いが根底にあるように思いました。随所に左洲の郷土愛が伝わってきます。

そして、二階の大広間舞台に描かれた見事な老松図も左洲の手なるもの。左洲は賓日館の館主、若松徳平の四女と結婚しているため、若松家とは親戚にあたります。そのため、大広間舞台も描いたと考えられています。そんな縁があるのも生涯二見に生きた画人ならではです。

今回の企画展は、かつて皇族方も宿泊した賓日館全館を使った贅沢さ。日本家屋に屏風や軸が飾られ、美術館では出ない日本画本来の魅力が味わえます。「二見に生きた画人・中村左洲」展は今月三十一日まで。

文 千種 清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○「伊勢神宮奉納行列」参加者募集

おかげ横丁では、秋の収穫を神様に感謝する「伊勢神宮奉納行列」へ、ご参加いただける小学生の女の子5名を募集いたします。

伊勢神宮で行われる神嘗祭は、その年の新穀を大御神に奉り、ご神徳に報謝するお祭りです。明治期まで、神様への奉仕を少女が行っていました。

これにちなみ、おかげ横丁では、年に一度、おかげの心を神様にお届けする神宮奉納行列を行います。

五穀（米・麦・粟・黍・豆）を手に、袿（うちき）姿の少女達が先頭となり、神宮への奉納物を担いだ一行が、内宮神楽殿へと向かい奉納します。

日 時／令和5年10月8日（日）10：00～12：00頃解散

締切り／令和5年9月8日（金）必着分まで

人 数／5名

条 件／①小学校3年生～6年生の女の子。

②髪の毛が後方でひとつにまとめられる長さであること。

③10月8日 午前8：15までにおかげ横丁に集合できること。

※奉納行列の様子を撮影した写真は、おかげ横丁の広報に使用される場合があります。また、当日はメディア取材が入る可能性があります。

参加費／無料

※おかげ横丁までの交通費については、参加者のご負担でお願いします。

※駐車場はございませんので、近隣の市営駐車場等をご利用ください。

選考方法／応募者多数の場合は抽選

結果通知／選考後、応募者全員に9月15日（金）までに電話にて通知

お申込み／おかげ横丁HP



お問い合わせ／おかげ横丁催事企画部 電話 0596-23-8827

五十鈴塾

○「えびす納豆」～父から受け継いだのれん～

「伊勢で唯一の納豆製造会社があるのをご存知でしょうか。明治23年創業のヤマジン食品は醤油味噌醸造業で、鈴木甚三郎商店として出発しました。昭和49年、先代(父)が作った「えびす納豆」は全国納豆鑑評会で優秀賞を受賞しました。しかし、その先代も6年前に亡くなり、納豆製造のいろはを何も教えて貰えなかった加藤さんは、味を守るべく伊勢へ戻る決心をします。先代からの「発酵に対するロマン、五感を働かせ感じる姿勢」を頼りに会社を経営。今回は「えびす納豆」を試食していただきながら、美味しい納豆を追い求め続ける加藤社長のお話をお伺いします。

と き／8月30日（水）13：30～15：00

講 師／加藤 淳子（ヤマジン食品株式会社代表取締役）

参加費／一般 1,500円 会員 1,000円（試食含む）

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○五十鈴茶屋節気菓子

の
野

ぎく
菊

伊勢路をわたる風にも季節の移ろいが感じられ、数多くの野菊が愛らしい花を咲かせる頃となりました。練りきりで粒餡を包み、初秋の野に揺れる、小さな花に見立てました。

ふじ
藤

ばかま
袴

夏の終わりから秋の初めに花を咲かせる藤袴。

香水蘭とも呼ばれ、秋の七草のひとつです。

この時季にふさわしい花を、葛生地と緑餡で彩りました。

つゆ
露

たま
玉

草木の緑はなお深みを見せているものの、葉に滴る露のひと雫からは秋の気配が感じられます。秋の季語「露の玉」

を羊羹のきんとんと、こし餡で表現しました。